

ボランティア活動の定義と仙台のボランティア活動の歴史（概要）

阿部幸泰

ボランティアの語源：

英語；volunteer（義勇兵、志願者） ラテン語；voluntas（意思）

ボランティア活動（1982．管野鞠子）：

「何らかの助けを必要としている人に対してさしのべられた、全く自主的な（義理人情や、他からの強制でない自分の意志と判断による）地域に住む人による、無償の行為である」。更に分かり易く言い換えれば、「地域に住む人間の自発的な助け合いの働きでもある」。

ボランティア活動の三要素：

自主性、無償性、福祉性（社会活動）

ボランティア精神（2002．阿部幸泰）：

三要素にプラスして、社会（人）との関係における自己形成性。

東北のボランティア活動の発生の背景：

戦前；凶作や冷害による飢えとの戦いの中で、真っ先に犠牲となる婦人や子ども救済の歴史。

戦後；戦後の混乱の中で、地域の子どもの育成を主たる目的とした青年、学生によるセツルメント活動。

国、地域の経済力の発展と共に、セツルメント活動の延長として、障害児・者支援に移ってきた。

（例えば、1961～「世代にかける橋（盛岡）」 1971～各地域の「生活圏拡張運動」と連帯 1972～「身体障害者の住みよい街づくり」。）

仙台のボランティア活動の歴史：

戦後：・親や家をなくした子ども達に取り組んだ学生の「児童愛護連盟」と、文化人の「仙台児童クラブ」が戦後ボランティア活動の第1号でないかと云われている。

・1949～「仙台学生センター」の一つのサ・クル 1954～「（在仙大学奉仕団）仙台ワ・クキャンプ」 西多賀ワ・クキャンパス 仙台繁華街に車道と歩道の段差を埋めるための鉄板スロ・ブ購入のために募金活動、自力で設置（全国のバリアフリ・への改善具体化の先鞭となる）

・1956～「東北学院大学セツルメント」 1963～「仙台マザ・ズホ・ム」

・1958～「東北福祉大学心身障害児福祉研究会」 1964～「重症心身障害児（者）のためのボランティアの会（恐らく、「ボランティア」の名を冠した仙台で最初のボランティアグループと思われる）」 宮城県肢体不自由児協会ホ・ムヘルプ制度

・仙台ワ・クキャンプの学生が中心となり、各ボランティアグループ、市民団体と連携し、1971～生活圏拡張運動

1971.11「三越仙台支店」が身障者用トイレに改善に着手し、全国最初のシンボルマ・ク（車いすマ・ク；1969.国際リハビリテーション会議で制定）貼付

近年：・1959.デンマ・クの「1959年法（ノ・マライゼ・ション）」、1975.国連障害者の人権宣言、1979.国連「国際障害者年行動計画」、1980.日本「国際障害者年推進本部」、1997.介護保険制度、2003.支援費制度、等々と相まって、現在のようにいろんなボランティア活動が行われるようになってきた。

参考文献：・東北の社会福祉、筑前甚七編集、相川書房、1982.

・よりよき社会の建設をめざして - 仙台ワ・クキャンプの記録 -、村田清、仙台ワ・クキャンプOB会、1998.